

令和4年度第14回庁議提案 **審議**・報告・その他
 提出日：令和4年10月25日
 担当部・課：保健福祉部介護福祉課〔内線2456〕

① 件 名
敬老事業の見直しについて
② 施策等を必要とする背景及び目的（理由）
<p>【背景】 市主催の敬老会については、例年9月に市内7地区9会場で開催してきたが、令和2年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全地区で中止し、代替事業として対象者全員に記念品を送付している。 合併当時（平成17年度）26.5%となっていた敬老会の出席率は、震災以降、大幅に低下し、近年は8%前後で推移しているが、高齢化による対象者数の増加に伴い、案内状作成経費の委託料等は年々増加している。 また、敬老会をはじめ、高齢者福祉事業の主な財源となっている長寿社会対策基金が令和6年度に枯渇する見込みとなっている。</p> <p>【目的】 市民の敬老意識の向上と、高齢者が年間を通して社会参加を行えるよう周知徹底を図り、高齢者福祉を充実するため、敬老事業を見直すもの。</p>
③ 根拠法令及び総合計画又は個別計画との整合性
<p>【根拠法令】 老人福祉法（昭和38年法律第133号）</p> <p>【総合計画との整合性 総合計画の位置付け：有・無】 又は 【個別計画との整合性】 第3章 共に支え合い誰もが生きがいを持ち自分らしく健康に暮らせるまち 第2節 生きがいを持ち自分らしく暮らせる高齢者福祉の充実 1 高齢者の生きがいづくりを推進する</p>
④ 提案に至るまでの経過（市民参加の有無とその内容を含む。）
<p>平成29年度 敬老会の地域開催への移行を検討 河南地区をモデル地区として、民生委員等へ開催方法のアンケート調査を実施した結果、約6割が地域開催を希望。河南地区全域で地域開催を希望しているわけではないため、平成30年度は市主催の敬老会を開催することとし、検討を継続することとした。</p> <p>平成30年度 敬老会対象者（77歳以上高齢者）へ意識調査を実施した結果、約6割が市主催の開催を希望したため、全地区で現行の開催方法を継続する方針を決定 ※対象者数：21,401人 回答者数：8,845人 回答率：41.3%</p> <p>令和元年度 市主催で敬老会を開催（出席率：8.3%） 令和2年度～ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため全地区で中止 令和3年度 県内各市及び類似団体の敬老会実施状況調査を実施 関係課協議</p>
⑤ 主な内容
<p>市主催の敬老会を廃止し、高齢者の社会参加の場を広く周知する。</p> <p>【実施してきた敬老会の概要】 対象者：77歳以上高齢者 開催地区：市内7地区9会場 （石巻、河北、雄勝、河南、桃生、北上地区各1会場、牡鹿地区3会場） 開催内容：式典とアトラクションの2部構成</p>

⑥ 実施した場合の影響・効果（財源措置及び複数年のコスト計算を含む。）

【影響・効果】

歳出予算の削減を図り、敬老会と同一目的である敬老祝金事業を継続することで、節目を迎えた高齢者の長年の功績と長寿を祝い、敬老の意を表するとともに、高齢者の健康への意識を高めることができる。

また、既存のサロン、老人クラブ等の自主的活動への助成を周知し、地域事業への参加者を拡大することで、年に一度の敬老会から、年間を通じた社会参加を促進し、高齢者の生きがいを高めることができる。

【市財政への負担】

事業費の削減 13, 142千円（令和元年度決算）

（内訳） 報償費 654千円（報償金、記念品）

旅費 4千円（旅費）

需用費 2, 573千円（消耗品、食糧費）

役務費 3, 284千円（通信運搬費、手数料）

委託料 6, 555千円（会場設営、バス運行業務、開催案内通知等）

使用料及び賃借料 72千円（船舶借り上げ料、タクシー借り上げ料等）

（財源） 長寿社会対策基金または一般財源

⑦ 他の自治体の政策との比較検討

【県内13市及び女川町の状況】

○市としての関りなし

仙台市、気仙沼市、名取市

○主催する自治会や社会福祉協議会等に対する委託や補助金で実施

塩竈市、白石市、角田市、多賀城市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、富谷市、岩沼市（R4～）

○市（町）主催で実施

女川町

⑧ 今後の予定及び施行予定年月日

令和4年度中 老人クラブ連合会、民生委員等各地区の関係団体へ説明

⑨ その他